

2020年8月9日  
宮崎中部教会主日礼拝  
牧師 乾元美

イザヤ書 42：1～4

ルカによる福音書 9：28～36

「これはわたしの子、選ばれた者」

#### <山上の変貌>

今日の聖書箇所は、よく「山上の変貌」と言われているところです。イエスさまが三人の弟子を連れて山に行かれ、祈っておられると、イエスさまの顔の様子が代わり、服が真っ白に輝いた。そして、モーセとエリヤという旧約聖書の時代の預言者が現れて、イエスさまと語り合っていた。そんな、不思議な場面です。

この出来事について聞く時に、これまでの流れを知っておくことが大切です。ルカによる福音書 9 章に入ったところでは、イエスさまは十二人の弟子たちに病人をいやす力と権能をお授けになり、町や村に派遣されて、各地で神の国を宣べ伝えさせられました。

すると、イエスさまのことを多くの人々が知るようになりました。それで、人々は「この方はどなただろう」「いったい、何者だろう」と、うわさするようになりました。

そんな中、イエスさまは五つのパンと二匹の魚で五千人以上もの人々を満腹させる、という奇跡を行なわれました。このことを通して、イエスさまが、人々の命を養い、導くために来られた方である、ということが示されたのです。

そして、この出来事後、イエスさまは弟子たちに問われました。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」

これに対して、イエスさまに招かれ、イエスさまのお側に置かれ、その御言葉を聞き、恵みの御業を目撃してきた弟子たちは、こう答えました。「神からのメシアです。」あなたは神からのメシア。神のキリスト。神が救いのために遣わされた方です、と。

しかし、弟子たちのイエスさまに対する理解は、十分だったわけではありません。当時の「メシア」という言い方には、人々の期待する理想像が投影されていたからです。敵を打ち負かす力強い王や、何でも言い当てる預言者、立派な祭司のイメージです。

そこで、イエスさまは、まことのメシアとはどういうものか。御自分がどのようにして、神の救いの御業を成し遂げるかを語られました。それが、9 章 22 節に語られていたことです。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」

こんなメシアの姿は、弟子たちにとって、とても受け入れがたいものでした。人々を救うために神から遣わされた方が、神に仕える長老、祭司長、律法学者たちに排斥されて殺されるなど、あってはならない、と思われることです。

しかし、イエスさまはご自分がそのようにしてメシアの道を歩まれる。だから、弟子たち

も、この苦難の十字架の道を歩いて復活の栄光に至られるイエスさまの後を、自分を捨てて、日々、自分の十字架を背負って従いなさい、と教えられたのです。

そして、今日の箇所です。それから八日ほどたったとき、とあります。三人の弟子が目撃した、山の上でのイエスさまの変貌。栄光に輝くお姿。そして、ここで天の父なる神さまの御声が聞こえます。35節「これはわたしの子。選ばれた者。これに聞け。」

天の父なる神さまが、弟子たちに対して、イエスさまがご自分の御子、まことの神の独り子であることを宣言され、このイエスさまに聞き従いなさいと命じられたのです。

今日の場面は、「この方はいったいどなたか」という弟子たちの問い、人々の問い、そして弟子を代表するペトロが「神からのメシアです」と告白した、これらのことに対する、父なる神さまからの決定的なお答えであり、また保証なのです。

イエスさまは、まことの神の独り子です。しかし、人間の罪を贖うために、すべての人を罪と死から救うために、まことの人となってこの世に来られました。イエスさまは、神の御子の栄光を捨てられ、そのご栄光は、地上の歩みにおいては隠されていました。しかも、それは徹底的に人の目から隠されていました。なぜならイエスさまは、苦難の道を歩まれ、呪われた十字架の死を遂げることで、人々を救われるからです。そのようなメシアだからです。

この神さまのご計画を理解するのは並みのことではありません。それは受け入れがたく、人間の理解を大きく超えていることだからです。

しかしだからこそ、この時、山の上で、神さまは、イエスさまがまことに神の御子であること、そして、苦しみの後、必ず復活して神の栄光をお受けになることの先取りとして、このことを示されたのです。

#### <聖書が語っていること>

さて、今日の箇所注目することの一つは、イエスさまと共に、モーセとエリヤが現れて語り合っていた、というところです。

この二人は、旧約聖書の代表者と言うことが出来ます。旧約聖書の最も大切な部分とされる、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記は、「モーセ五書」と呼ばれています。それ以外の部分は「預言者」と呼ばれており、その預言者の代表はエリヤです。つまり、この二人は、旧約聖書全体を示す存在なのです。

そして、この二人が示している旧約聖書に語られた、神さまの救いのご計画を実現し、新しい神さまとの救いの契約を結んで下さるのが、新約聖書の中心となられるイエスさまです。つまりこの三人は、旧約聖書、新約聖書の「聖書全体」を体現しているのです。

この三人が語り合っていたこと、つまり聖書全体が語っていることとは、何でしょうか。それは、31節に語られています。

「二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。」

イエスさまがエルサレムで遂げようとしておられる最期とは、9章23節に語られていた「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている」ということです。イエスさまは、エルサレムへ行って、この十字架の苦難と復活の御業を成し遂げようとしておられる。それが、「イエスがエルサレムで成し遂げようとしておられる最期」です。

さて、ここで「エルサレムで成し遂げようとしておられる『最期』」と語られている『最期』という文字は、ギリシア語で「エクソダス」と書かれています。

これは、脱出、出ていく、という意味があります。それで、この世から出ていく、と言う意味で「死」、「最期」を現わしています。しかし、それだけではありません。

「脱出」の意味があるこの「エクソダス」という言葉は、旧約聖書の「出エジプト記」のタイトルになっています。つまり、「エクソダス」というと、出エジプト記の、神さまがイスラエルの民をエジプトの奴隷の中から助け出し、脱出させ、導き出された、その救いの出来事を指しているのです。

ですから、イエスさまが、エルサレムで成し遂げようとしておられる最期、「エクソダス」、「脱出」とは、すべての人を罪の奴隷から脱出させる、解放する、そういう神の救いの出来事をイエスさまが成し遂げられるのだ、ということです。

モーセとエリヤ、そしてイエスさま。つまり聖書全体は、人々を罪から救い出して下さる、罪の奴隷状態から脱出させて下さる、神さまの救いの計画とその実現を、語り、指し示しているのです。それが、神さまの御心であり、聖書がわたしたちに語っていることなのです。

### <イエスさまの栄光>

そして、もう一つ、今日の箇所が示しているのは、イエスさまの栄光についてです。

32節には「栄光に輝くイエス」が見えたとあります。この時に垣間見えたイエスさまの栄光は、苦難の十字架の死を経て、復活させられる、イエスさまが将来受けられる栄光の先取りです。

しかし、このイエスさまの栄光は、エルサレムですべてを遂げられるまで、十字架の死によって御業を成し遂げられるまでは現わされません。神の身分を捨て、すべての人々の罪を担い、身代わりになって死ぬためにまことの人となられたイエスさまは、栄光からは程遠い、恥と苦しみに満ちた、十字架の苦難の道を歩まなければならないのです。神の御子であるイエスさまが、その栄光を捨てて、すべての人の苦しみ、罪、そして死を担って下さることによってこそ、わたしたちは罪と死の中から解放され、脱出させられるのです。

しかし、そのような苦難の十字架によって御業をなされる先に、必ず栄光が約束されている。復活が与えられる。十字架を経て、復活なされて、その道筋によってこそ、まことの神の栄光が輝きわたる。ここでは、そのイエスさまの将来の栄光が、約束として先取りされ、弟子たちに示されているのです。

### <ペトロの思い>

しかし、ペトロはちょっと早とちりです。ペトロはイエスさまに言いました。「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロは、自分でも何を言っているのか、分からなかったのである、とあります。

ペトロは、とにかく今、素晴らしい神の栄光を見えています。イエスさまが栄光で光り輝き、旧約聖書の重要な人物もまた栄光に包まれて語り合っている。今、目の前にこの栄光を見ている。この栄光を留めておきたい。ずっとこの栄光に包まれていたい。いつまでもこの栄光に与ってほしい。

それでペトロは、三人が地上に留まることが出来るように、仮小屋をそれぞれのために造りましょう。だから、あなたたちは、居場所をここに、地上のわたしたちの許に留まって下さい、という事なのです。

### <父なる神のお答え>

しかし、その時、雲があらわれて、イエスさまとモーセとエリヤを包み込みました。

雲とは、聖書においては神さまの臨在を表します。ここで神さまは三人の姿を隠されました。神さまは、人が自分の望みによって、自分の願う方法によって、神さまの栄光を留めようとすること、安易に栄光を手にしようとすることを、許されなかったのです。

確かに、ペトロ、ヨハネ、ヤコブの三人は、イエスさまが十字架の後、復活に至った時に約束されている栄光を、先取りして見ることを許されました。

しかし、それは来るべき時の栄光の約束を示すもの、イエスさまが苦しみの中に必ず栄光をお受けになるということを示すためのものであり、このことが神さまの確かなご計画であることを証しするためのものです。

ですから、今ここで弟子たちが簡単に手に入れ、共に味わい、与ることができる栄光ではないのです。

人が望む形で、人が望む方法で、神さまの栄光を手にしたり、留めたりすることは出来ません。イエスさまは、十字架の苦難と死の道を歩まれ、そして復活の栄光に至られます。それが神さまのご計画です。

この方に従う弟子たち、わたしたちもまた、このイエスさまの苦難の十字架の御跡に従っていくことによってこそ、イエスさまの復活の栄光に与ることが出来るのです。

ですからイエスさまは、前回の箇所でおられました。9章23節「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

弟子たちの、わたしたちの罪を担い、苦しみ、十字架の道を歩いて死んで下さったイエスさま。この方の苦しみと死によって、わたしたちは救われ、罪と死から脱出し、復活と永遠の命に与ることが出来るのです。

ですからわたしたちは、自分の思い描く救いや、自分の願いや、自分の理想を、捨てなければなりません。神さまが示されたことを信じ、神さまが成し遂げられる御業によって救っていただき、神さまの示された方法で恵みを受け取るのです。

わたしたちは、イエスさまの十字架の御跡に従って、自分の十字架を背負って、イエスさまと共に、イエスさまと一つになって歩んで行くようにと教えられています。

その、神さまの御心に従う歩みの中でこそ、イエスさまと共に歩む中でこそ、わたしたちは、自分ではどうすることも出来なかった罪を赦して下さったイエスさまの十字架の意味を知り、そこに示された神さまの愛を知り、その恵みを豊かに受け取っていくことが出来るのです。十字架の御業を成し遂げて、復活させられた、イエスさまのまことの栄光を、見つめていくことが出来るのです。

そして、わたしたちの地上の歩みの先にも、復活なさったイエスさまの栄光が用意されている。イエスさまの十字架によって罪から脱出させて頂いたわたしたちもまた、イエスさまの復活の栄光にも必ず与ることが出来る。その約束を、信じる事が出来るのです。

ですから、神さまは語られました。「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け。」

弟子たちの、人々の、そしてわたしたちの、「いったい、この方はどなたなのだろう」との問いに対する、決定的な神さまからの答えです。そして、ご命令です。

イエス・キリストは、わたしの愛する独り子。まことの神の御子。あなたの救いのために選び、メシアとして、キリスト、救い主としてわたしが立て、遣わした。

だから、「これに聞け」と言われます。あなたを導き、救うのはこの者だ。わたしの愛、わたしの救いを実現するのはこの者だ。このイエス・キリストの言葉に聞きなさい。このイエス・キリストに従いなさい。

旧約聖書が、神さまのご計画を指し示し、神さまがメシア、救い主を遣わして下さることの約束を語っていました。そして、その御言葉の実現として、救いを成し遂げるためにイエスさまが来られました。この方が、神さまに逆らって関係を壊してしまったわたしたちを、その罪から解放して下さり、滅びの死から脱出させて下さり、新しい神さまとの関係を与えて下さるお方です。新しい命と、復活の約束を与えて下さるお方です。

わたしたちは、この方が救いの御業を成し遂げて下さったことを信じ、この方の御言葉に聞き、この方にこそ従っていくのです。

## 【お祈り】

天の父なる神さま

わたしたちを罪の奴隷から導き出すために、脱出させるために、あなたの愛する御子、イエスさまをメシアとして遣わして下さい、心から感謝いたします。

しかもイエスさまは、神の御子でありながらその栄光を捨て、わたしたちと同じ、貧しく、弱い、まことの人となり、わたしたちの苦しみも、痛みも、悲しみも、死も、すべてを共にして下さいました。そして、わたしたちの悲惨な罪を全て担い、わたしたちのためにエルサレムで十字架に架かって死に、救いの御業を成し遂げて下さいました。

そして、あなたはイエスさまを死の中から復活させられました。イエスさまは栄光をお受けになり、わたしたちもまた、イエスさまに従うことによって、イエスさまの十字架に死に与って罪を赦され、またイエスさまの復活に与って、あなたの栄光に与ることが出来ることを約束して下さいました。

どうか、わたしたちが、自分の思いを捨て、あなたの思いにこそ従うことが出来ますように。あなたが与えて下さった御子、イエスさまの御言葉を聞き、その十字架の歩みに従い、そして将来、復活の栄光に与ることが出来ますように。

聖書に示された、この確かな約束、あなたの確かな恵みの御心を悟り、受け止め、その救いの恵みに生きる者として下さい。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン